

ティージャン・バーイー

インド/音楽 Teejan Bai

パンダワーニーの世界 インド古代叙事詩の歌語り

■ 開催日/2018年9月22日(土) 16:00~18:00 ■ 参加者/250人
■ 会場/福岡市科学館6階 サイエンスホール

第1部 講演

インドの大叙事詩を歌語りで披露し 地域を越えて人々の心を引き付ける



村山氏は講演で、パンダワーニーとは、インドの叙事詩『マハーバーラタ』の名場面を「歌語り」でパフォーマンスするもので、インド・チャッティスガル州を中心にその周辺で行われ、パフォーマンスはヒンディー語の方言であるチャッティスガリー語で語られることを解説。それは、民衆芸能として伝えられ、日本で例えると浪花節のようなものであると述べました。ティージャン・

バーイー氏が持つ楽器「タムラー」は3本の弦からなり、楽器の中に3人の神様がいと紹介。また、楽器であると同時にさまざまな見立てに使用われ、弓やこん棒、もぎとられる腕などの役割を果たすとのこと。宗教的儀礼とは関係なく、自由にどこでも公演できると話しました。

続いて、沖田氏が『マハーバーラタ』は全18巻、約10万詩節からなる世界でも最大級の大叙事詩であると紹介。『マハーバーラタ』の主題は、バラタ族の王位継承問題に端を発した大戦争であり、主役はパンドウ王の五人の王子と、彼らの従兄弟にあたる百人の王子。これらの英雄たちは、「化身」と呼ばれるインド特有の関係によって、天上における「本体」ともいべき神的存在と結び付けられ、神と英雄たちとの関係が物語に大きく影響していると話しました。『マハーバーラタ』は決してハッピーエンドの英雄物語ではなく、戦争に加わったほとんどの戦士が死に、神の子である主役の英雄たちも人間としての罪と死を逃れることはできないという、さわめて深淵な神話であると講演を結びました。



講演者
村山 和之
(中央大学および和光大学非常勤講師)



講演者
沖田 瑞穂
(日本女子大学家政学部および白百合女子大学非常勤講師、中央大学文学部兼任講師)



コーディネーター
小磯 千尋
(金沢星稜大学教養教育学部准教授)

第2部 パフォーマンス

演目:『ドラウパディーの花婿選び』

『ドゥシャーサナの殺戮』

出演:ティージャン・バーイー/パンダワーニー奏者

ケーヴァル・プラサード/タブラー(太鼓)

マンハーラン・サルヴァ/ダフリー(タンバリン)

ラームチャンド・ニシャード/ボーカル、マンジラー(シンバル)

チャイトラーム・サファー/ハルモニウム(オルガンの一種)

ナロットム・ネータム/ドーラク(両面太鼓)

第2部はティージャン・バーイー氏によるパンダワーニーのパフォーマンスが行われました。タムラーという三味線のような弦楽器を手に、絞り出すような声で歌い上げる姿は、まるで登場人物が憑依したかのようで、観客の心を強く引き付けました。『ドラウパディーの花婿選び』では弓矢を手に取り、油の入った水槽の魚影から魚の目を射抜くというシーンが最大の見せ場でした。ティージャン・バーイー氏の得意演目であるという『ドゥシャーサナの殺戮』では、髪にドゥシャーサナの血を塗りつけて結わえるシーンを熱演。また、伴奏者とかわずやり取りも面白く、一瞬たりとも目が離せないパフォーマンスが披露されました。

学校訪問

■ 実施日/9月21日(金) 10:35~11:25
■ 会場/堤ヶ丘小学校

パンダワーニー伴奏者によるリズムカルな音楽で幕を開けた音楽交流会。まず、案内役の村山和之氏がパンダワーニーとティージャン・バーイー氏を紹介し披露される物語を解説。「マハーバーラタ」の物語を歌うパンダワーニーのパフォーマンスが始まりました。当初、児童たちは力強い歌声に圧倒された様子でしたが、次第にティージャン・バーイー氏の表情豊かな演技に引き込まれていき熱心にステージを見つめていました。

演奏後は児童たちが返礼として校歌を合唱。質問コーナーに移ると、楽器の特徴やマハーバーラタが作られた時代、パンダワーニーとの出会いについて児童たちは活発に尋ね、ティージャン・バーイー氏は一つ一つ丁寧に答えていました。締めくくりに「私は辛いことがあっても乗り越えて大好きなパンダワーニーを続けてきました。みなさんも自分の国の文化を大切に自分でやろうと思ったことはやり遂げましょう」とメッセージ。児童たちは盛んに拍手を送っていました。



■ 実施日/9月21日(金) 14:25~16:15
■ 会場/和白中学校

全校生徒から大きな拍手とヒンディー語による歓迎の言葉で迎えられたティージャン・バーイー氏一行。最初に村山氏がティージャン・バーイー氏と「マハーバーラタ」を紹介しステージはスタート。演奏は次第に熱を帯び、生徒たちは感動の眼差しで動きを見つめ歌声に聞き入っていました。

返礼として生徒たちは「ふるさと」を合唱。その後の質問コーナーで生徒代表が、パンダワーニーを女性が演じることの苦勞を尋ねると、ティージャン・バーイー氏は「当時は批判が強く、家族にも理解してもらえませんでした。しかし、パンダワーニーを愛していたので乗り越えることができ、今は幸せ」と答え、「希望や夢に向かってやりたいことをやり抜いてください」とメッセージを送りました。それに対し生徒代表がお礼の言葉と共に花束と校歌が入ったCDを贈呈。ティージャン・バーイー氏は笑顔で受け取り、全校生徒に手を振って感謝の意を表していました。

